

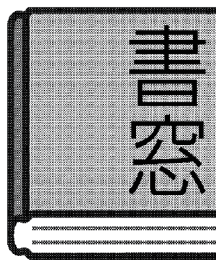


日さく社長

わかばやし
若林

なおき
直樹氏

人間力鍛えるヒントに『なぜ名経営者は石田梅岩に学ぶのか?』



1冊の本を必ず2回は読むようにしている。1回目では全体のあらすじを押さえ、2回目に熟読することで、本の内容が自分の血となり肉となる感覚がある。読書は量ではなく質が大切だ。

森田健司著『なぜ名経営者は石田梅岩に学ぶのか?』は何度も読み返し、付箋だらけになった。本書は梅岩の思想で商人の道徳観を説いた「石門心学」を読み解いており、現代を生きる我々がそこから何を得られるのかを説いている。普段ビジネス書はほとんど読まないが、1年半前タイトルに惹かれ、手に取った。

「石門心学」は京セラ創業者の稲盛和夫さんなど、日本の名経営者らに

心に響く「石門心学」

も影響を与えたといわれている。私も本書を通じて「なぜ人は生きるのか」「なぜ人は働くのか」をあらためて考えることができた。その後、石門心学に関する書籍を4冊以上読み知識を深めた。

感銘を受けた教えの一つは「形によるの心」だ。動物は基本的に生まれて死ぬまで私利私欲にまみれることがなく、生まれたままの形で生涯を過ごす。後天的な私欲を持たず心が曇っていない。一方、人間も生まれながらの赤子は同じだが、次第に私欲などによって濁る。梅岩は生まれてのままの心を大切にしていかに私欲を排していくかを考えることが必要だと説いている。

梅岩の教え子

「読書は必要不可欠だが人生にとって必要十分条件ではない」と話す。だからこそ、読書して満足するのではなく、そこから得た知識を発信・実践することが重要とい

余滴

私欲を解消するには、仕事に打ち込み勤勉である必要がある。与えられた仕事に必然性を見だし、より精力的に働くことで実現できるとしている。

企業は技術力や営業力だけではなく、人間力も必要だ。生まれたての赤子のような純粋な気持ちを持ち、欲望を少しずつ削っていくことが人間力の向上につながるだろう。ほかに、俟約は自分のために節約することではなく、社会や世界のために行うべきだという教えも胸に響いた。

石門心学は当時から約300年経過した今でも心に響き、人間力を鍛えるヒントがちりばめられている。

梅岩はその生涯を自身の哲学の布教にさげた。若林社長はその教えを日々の行動へ落とし込み実践に移している。さなかだと自負する。時を経た今も梅岩の教え子の一人といえそうだ。(さいたま・大城啓子)